

# 図書館だより



京都市立高野中学校  
図書館

令和4年 5月号

## 新緑のなか、本を読みませんか？

5月におすすめする本は「0号室」さんの「がんばる理由が君ならいい」です。

この本は大切な人を大切にする方法がかれています。

普段一緒に過ごしている家族や友達だからこそ、  
いつも大切にし続づけてられないかもしれません。

この本はそんな自分の行動と身の回りの人の大切さに気付ける  
一冊です。

図書委員長



## 5月は 本屋大賞 特集！！

先月、2022年の「本屋大賞」が発表されました！

この賞は全国の書店員が昨年一年間に出版された本の中から  
「いちばん売りたい本」を選ぶ賞です。

今月の新着本は、本屋大賞1位から10位の小説がずら～り

勢ぞろい！ついでに歴代の本屋大賞受賞小説も展示しています！

どの小説も超おすすめの一級品です！まだまだいろんなことが制限され  
ている現実世界。そんな今だからこそ、物語の世界にどっぷり浸って、現  
実逃避してみるのもいいかもしれません。

GW明けのこの時期は心も身体も疲れがち…。静かな図書館で本を読  
んでほっと一息。みなさんのご利用をお待ちしています！

2022年大賞決定!!

# 本屋大賞

Supported by NOLTY PAGEM

2位 3位 4位 5位  
6位 7位 8位 9位 10位

2022年本屋大賞

大賞 同志少女よ、敵を撃て

手帳ブランドNOLTY / PAGEMは本屋大賞に協賛し、応援しています。

## 同志少女よ、敵を撃て

逢坂 冬馬/著

堂々第一位作品！独ソ戦が激化する1942年を舞台に、「死ぬか、それとも戦うか」究極の選択をした少女が戦うべき「眞の敵」とは？今起こっている戦争ともリンクしています。ミステリーアクション小説としても話題の一冊。



## 赤と青とエスキース

青山美智子/著

「お探し物は図書室まで」の著者が今年も連作短編小説で受賞。メルボルンの若手画家が描いた1枚の下絵(エスキース)。日本に渡つて30年、その絵画は「ふたり」の間に奇跡を紡いでいく。仕掛けに満ちた二度読み必須の小説。



## スモールワールズ

一穂ミチ/著

家族という小さな世界は、私たちの身近なもの。ちょっとした会話や気持のすれ違い、どうしても言えずに飲み込んでしまった思い、ささいなエピソードが詰まつた6つのストーリーがどれもキュウっと心に来る感じの連作短編集。



## 正欲

朝井リユウ/著

あってはならない感情なんて、この世にはない。それはつまり、いてはいけない人間なんて、この世にはいないということだ。ある人物の事故死をきっかけに多様な人の人生が重なり合つて…。「多様性を尊重する」時代に生きる私たちに描さぶりかけてくる小説。



## 六人の嘘つきな大学生

浅倉秋成/著

「犯人」が死んだ時、すべての動機が明かされる—新時代の青春ミステリー。就活大学生たちの究極の心理戦。ミステリー好きな人はぜひ読んでほしい今注目のミステリー小説。早速映画化も決定の話題作



## 夜が明ける

西加奈子/著

思春期から33歳になるまでの男同士の友情と成長、そして変わりゆく日々を生きる奇跡。まだ光は見えない。それでも僕らは夜明けを求めて歩き出す。



## 残月記

小田雅久仁/著

近未来の日本。悪名高き独裁政治下。世を震撼させる感染症「月昂」に冒された男の宿命とその傍らでひっそり生きる女の一途な愛。「月」をモチーフにしたダークな三編。日常が一変する恐怖。それでも何かを守ろうとする勇気と行動力が描かれた作品。



## 硝子の塔の殺人

知念実希人/著

雪深い森で、ひときわ輝くガラスの塔。地上11階、地下1階、唯一無二の美しい巨大な塔。ミステリーを愛する大富豪の呼びかけで刑事、靈能力者、小説家など癖のあるゲストが招かれ、次々と惨劇が起こり…。「館」もののミステリーが好きな人におすすめ。



## 黒牢城

米澤穂信/著

本能寺の変の4年前、織田信長に背き、有岡城に籠城した荒木村重は、城内で起る難事件に翻弄される。解決のため、幽閉していた織田方の黒田官兵衛に謎解きを求めたが、その結末は…。戦国×ミステリーで直木賞を受賞した本作。歴史好きもミステリー好きもぜひ読んで見て下さい。



## 星を掬う

町田そのこ/著

小学1年の夏休み、私は母と二人で旅をした。その後私は母に捨てられた。最後まで読むとこのタイトルの「星を掬う(すくう)」の意味が分かるかも…。

